



公明党  
ながお くにただ  
永尾 邦忠 議員

## 難聴・網膜色素変性症

**Q** 難聴により、危険を察知する能力の低下、コミュニケーションが取れず、孤立状態となり、認知症やうつが懸念される。補聴器の補助が必要だと思うが。

**A** 一定程度の聴覚障がい者には補聴器の助成があるが、難聴者にはない。厳しい財政状況の中、他の市町等の事例を研究したい。

**Q** 網膜色素変性症は難病である。器具として暗所視支援眼鏡があるが、約39万5千円と高額である。購入費の一部助成、若しくは市で購入し貸し出しをしてはどうか。

**A** 網膜細胞に異常が生じ発症する難病の一つ。暗所視支援眼鏡の購入に支援している自治体もあるので、機器の性能も含め、研究したい。

## 就業支援

**Q** 働きたくても働けない。就業へお手伝いできないか。①就職氷河期世代への支援は。②地域就労氷河

## 期世代支援加速化交付金の活用を。

**A** ①30代半ばから40代半ばの世代に国が今後3年間の集中支援を行う。主な支援策は、ハローワークにおける専門窓口の設置、職業紹介や民間事業者のノウハウを活かした就業支援、資格取得支援などが実施予定。事業所に対しては、国の雇用関係助成金等について、対象年齢要件などの拡充を行い、事業所の積極的な採用を促すこととなっている。②交付金制度について、内容を研究し検討したい。

**Q** ①ひきこもり者への支援は。

**A** ②ひきこもりについての調査研究や広報の経費の補助を行う「ひきこもりサポート事業」の活用を。

**A** ①相談は福祉課が窓口で、必要に応じて家庭訪問などを実施。就労相談には福祉団体や企業と連携し、就労体験などを通して就労に結びつくような支援も引き続き行いたい。②本市では生活困窮事業、また、県南保健所にはひきこもり地域支援センターもある。この事業補助については、今後検討したい。

## 【その他の質問項目】

◇教育について

◇九州横断サイクリングコース（仮称）について

◇新型コロナウイルスについて



市民平和の会  
くさの かつよし  
草野 勝義 議員

## 人口減少対策とテレワーク

**Q** 人口減少問題についての見解と対策。

**A** 本市の人口は平成30年度末で4万4907人。次期総合戦略で移住・定住・婚活をさらに推進し、産業の経営基盤強化や担い手確保、若者の地元就職、人材育成、交流人口の拡大、安全・安心なまちづくりを総合的に取り組んでいく。

**Q** ふるさとテレワークの推進について。

**A** 地方に居住・滞在しながらテレワークで都市部の仕事をする働き方を推進していく。U・Iターン増加を目的に支援事業経費を予算化した。

**Q** 新庁舎の一室をサテライトオフィスにできないか。

**A** 庁舎にサテライトオフィスがあれば便利と思う。空き家対策や整理集約された公共施設のオフィス活用で、中心市街地の空洞化をさせない考えである。

## 新庁舎と教育現場の労働環境

**Q** 新庁舎での職員の休憩の取り方について。

**A** 職員休憩室の部屋と合わせて、会議室は1階に1カ所、2階に7カ所、3階に2カ所あり、昼休みなどの時間帯に指定し活用する。

**Q** 学校で変形労働時間制を導入する給与特別措置法の改正について。

**A** 今後、県の条例改正の検討にあわせて時間制の動きを見守りたい。

**Q** 情報技術活用のプログラミング教育による先生の負担増はないか。

**A** 教育センターの講義を通じて、スムーズな移行ができるように準備している。

## 高齢社会と防災

**Q** 高齢化社会の中での自主防災組織については。

**A** 安中がモデル地区であり、他の地区にも紹介し、組織の再編に取り組む。避難行動要支援者に対しては名簿を作成し、住民一丸となった自主防災組織を目指したい。

## 【その他の質問項目】

◇新型コロナウイルス対策について

◇築城400周年に向け御城印の新設を